

会議名 令和5年度第1回広報広聴検討会議

開催日 令和5年11月22日(水)	会議時間	開会 AM 9:30 閉会 AM 11:10
会議場所 役場 町民ホール(議場)	記録者	企画環境課広聴広聴係 主事 青木 未歩
出席者 委員:小坂みゆき委員(座長)、沼尻賢治委員、ランド千佳委員 加藤茉莉亜委員、細川清映委員 町:企画環境課長、広報広聴係		

会議日程

- (1) 座長選出
- (2) 広報広聴活動全般について
- (3) SNSの発信(note・インスタグラム)について
- (4) その他

会議内容

<p>■副町長あいさつ</p> <p>■事務局より本会議の趣旨説明</p> <p>■自己紹介</p> <p>■座長選出 小坂みゆき委員</p> <p>■議事(小坂座長による進行)</p> <p>【広報広聴活動全般・広報ニセコについて】</p> <p>大野係長より広報誌・広報広聴活動全般について報告</p> <p>●広報広聴活動全般について</p> <ul style="list-style-type: none">・広報として特に改善したい点は? (大野)HPが非常に分かりにくいという意見を多数いただいているので、HPを改善したい。・ニセコ町に引っ越してきて、広報誌が充実していて驚いた。外国人でも読みたい人がいる。・ニセコの情報を知りたい外国人は多いため、全般的に英語対応を強化するべき。 (大野)今年4月からはHPにテキストページを設けて、HP内の翻訳機能を使って、英語、韓国語、中国語に変換できるようにしている。・HPのテキスト版(多言語翻訳ページ)について、外国人への周知はどのようにしているのか。 (大野)現在はしていない。今後は各SNS等で広報発行のお知らせを行う際に、英語の文章でもお知らせすることを考えたい。・HPテキスト版の周知をもっとしたほうがよい。・HPテキスト版から翻訳できるという機能を知らない外国人も多いので、広報ニセコの表紙だけ英語に翻訳したものをA4半分の大きさで作成し、その中にテキストを英訳したページのQRを入れてみてはどうか。
--

(大野) すぐに実践できそうなので、意見を参考に設置しようと思う。

- ・町公式 LINE の存在を知らない町民も多いため、LINE の周知をもっとした方がよい。
- ・HP の検索能力の精度向上を図るべき。

(大野) 事業者へ相談したが、よい改善策は模索中。

- ・HP の基本は「見やすい」「使いやすい」を大切に。
- ・町内で開催されるイベントについて、もっと町民へ情報共有したほうがよい。
- ・広報への折り込みチラシを PDF 化して各 SNS など情報発信をしてみてもよい。

(青木) SNS の運用方法として、現状では各課から依頼があった内容を発信している状態。自発的に情報発信をするスタイルではない。だが、意見を参考に検討したい。

- ・HP はほかの自治体の HP を見て、わかりやすい自治体を参考にするとよい。
- ・ニセコ町 HP 内のトップページにある GSTC のカルーセルを見ると、「分かりにくい」と感じてしまうので、別の写真の上に掲載するなど、改善したほうがよい。

●広報誌について

- ・町長コラムは、副町長や教育長のコラムを載せたりせず、毎月町長からの言葉を掲載する方がよいと思う。

(大野) 基本的には町長コラムを掲載している。

- ・広報紙に掲載している各 SNS の QR コードをもっと目立つ位置に変えたり、サイズを大きくして強調したほうがよい。せっかく SNS をやっても知らない町民も多い。
- ・広報誌面の中にアンケートコーナーページを作ってみてはどうか。

●広報アンケートについて

(町で行うアンケート全般についての意見)

- ・観光や総合計画などで、町民にランダムでアンケートを配布しているが、紙でのアンケートという時点で回答者が偏ってしまう。そうした意見から結果を検証するのはどうなのか。

・ニセコ町公式 LINE があるので、LINE のアンケート機能を活用してアンケートを実施してはどうか。

- ・ニセコ町の年齢人口分布は分かるはずなので、SNS を活用しない世代（高齢者など）には、アナログ方式（紙媒体）で実施してはどうか。全ての世代に紙媒体でアンケートするより、手間がかからない。

(広報アンケートへの意見)

- ・アンケートは1回きりではなく、何度も実施し回収、幅広い意見を収集するために回収率を上げるとよい。

- ・アンケートは今まで定期的に行っていたのか。

(大野) 今まで行ったことはない。今回初の試み。

- ・アンケート内で、年齢層を聞く項目があってもよいと思う。回答者が町民なのか町外の人なのか把握するための質問項目を作ってみては。→年齢層、居住地（町内、町外）は項目追加で考えたい。

- ・このアンケートを英語対応してはどうか。

(大野) 英語対応を考えたい。

- ・アンケートに回答すると得られるメリットがあれば、より多くの人が気軽に回答するようになる。（回答者の中から抽選で特典をプレゼントするなど）

- ・アンケート回答者への特典として、町内の温泉入浴券や特産品を活用してみてもいい。
- ・アンケート回答者への特典として、普段の生活で使えるクーポンなどはどうか。
- ・綺羅カードを電子化し、スマホからアンケートに答えると綺羅ポイントがもらえる特典はどうか。
- ・多くの人の目に触れるよう、最初からアンケート画面が表示されるように設定してはどうか。
- ・アンケート項目 Q2-1 で、就労やアルバイトの項目があるとよい。→ニセコ町内での就労に関しては町内外にかかわらず興味関心は高い認識で、項目追加を考えたい。
- ・アンケート項目 Q2-1 で、選択肢に「農業に関すること」とあるが、どんな回答を想定しているのか。質問の意図は何か。→「関心を持っているニセコの情報」について伺っている項目で、ニセコの主要産業である農業についても外せない（外す理由がない）項目と捉えております。

（黒瀧）担当者が不在のため本旨は分からないが、ニセコ町の基幹産業である農業と観光に関する情報は広報として外せない情報だと考えた。担当者に確認し、後日改めて回答する。

●SNSの発信について（note、インスタグラム）

地域おこし協力隊伊藤より、町公式 note について報告

- ・公式 note 記事の更新のお知らせを各 SNS で積極的に行っているのはとてもよい。

青木主事より、インスタグラム立ち上げに向けてのプレゼン

- ・フェイスブックとインスタグラムは連動できるのか、連動させるのか。
- （青木）連動は考えていなかったが、それも含めて考えたい。
- ・ニセコ町としてどんな目的で運用するのか。（移住、観光客の2点のうちどちらをターゲットにするのか）
- （青木）移住者向けの情報発信を考えている。
- ・他自治体のインスタグラムで成功している事例はあるのか。
- （青木）今回調べてみて、福岡市のインスタグラムはどのサイトでも上位に挙がっていた。
- ・福岡県福岡市のインスタグラムの評価がなぜ高いのか、市の取り組みなども含めて検証してみるとよい。福岡市はインフォメーションセンターがあり、親切的な町、イノベーション機能もしっかりしている。
- ・各 SNS の属性、特徴を把握し、使い分けた方がよい。
- ・具体的に何を指すのか、ターゲットをしっかりと決めて、それに特化した情報を発信することが大切。
- ・移住者がターゲットなら「移住」というコンテンツに絞ってやってみる。
- ・移住者が憧れるコンテンツはたくさんあると思う。私たちにとっては日常の風景が、都会の人にとっては非日常かもしれない。
- ・今までになかったことをやるので、同じ情報を発信するのではなく、インスタグラムの特徴である視覚的な影響とビジュアルを重視して活用するとよい。
- ・利用者が何を目的にインスタグラムを使用しているのかりサーチするとよい。
- ・写真掲載の際、広報広聴係が撮った写真だけでなく、町民や写真家などに協力を得るのもよい。
- ・フォトコンテストの開催はよいと思う。インタラクティブ（双方の交流）になる。観光

客やフォトグラファーを目指している人にとって、ニセコ町が紹介してくれるのは大きなメリット。訪問者の写真の発信はニセコの魅力が伝わりやすい。

（青木）町民目線は大事なので、ぜひ前向きに考えたい。

（黒瀧）Instagramは道内40自治体のうち、小樽市が最もフォロワーが多い。

・ニセコ町独自のハッシュタグを作るとよい。ハッシュタグをつけたら、広報誌の裏表紙に掲載されるという連動もよい。

・投稿頻度は週1回だと足りない。タイムラインに上がらない。最低でも週3回は必要。

・冬の雪崩情報を発信すれば投稿回数が増える。

【次回】

・2月～3月ごろ、予算説明書の内容を主な議題として開催予定。